

日置前焼の開窯

江戸時代後期（18世紀後半）になると、滋賀県内各地を含め、全国的規模で新規の焼物が開窯されはじめます。その理由は、水簸という窯業技術の革新によって、質の悪い粘土でも良質の陶土を得ることが可能になったこと、菜種や綿実などの灯油の量産によって灯明皿などの灯火具が汎用化したことや、お茶・煙草・酒などが庶民でも楽しむことのできる値段になり、土瓶・急須・湯呑み・火入れ・徳利などが日常の必需品となるなど、焼物の需要が増大した点などがあげられます。ただ、旧来の焼物の産地だけでは、急増す

江戸時代の焼物
今津町日置前焼

る需要に 대응することができなかったために、各地に開窯されたと考えられています。

「茶碗山窯」の発掘

昭和63年に今津町日置前で実施された「茶碗山窯」の発掘調査では、全長9メートル、焼成室が6室、6室のうち最上段の焼成室が、幅3.5メートル、奥行き1.2メートルの連房式登窯が発見されました。江戸時代の信楽窯跡に比べて窯の規模は小さいものです。

日置前焼のその後

白化粧を施したものの、鉄絵が描かれたものなど優美な作品が大半で、雑器がほとんどないのが特徴です。出土遺物の年代については、信楽の類似する碗類の形式や意匠などから18世紀後半から19世紀初頭のものと考えられています。

さいものです。

出土した製品類

には、筒碗・丸碗・端反碗・皿・鉢・香炉・灯明皿・灯明台など八器種があります。大半は焼成不良で釉薬や顔料がよく溶けていない失敗作ですが、抹茶茶碗などの茶陶製品が多く、

文化財課
4467



茶碗山窯の製品

編集 雑感
今月の特集では、総合戦略で取り組んでいる「びわ湖高島ブランド戦略推進事業」をご紹介します。この事業では、市民の方自らが記者やカメラマンとなり、高島市の魅力を取材し、発信していくという取り組みをしています。それぞれ魅力的な文章や写真でご紹介されており、まだまだ知らない高島市があるんだと気づかされます。その内容は「高島の食と人」ホームページをご覧ください。ただです、ぜひご覧ください。(S)



広報たかしま

平成28年

6

月号
No.197

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒501-8501 滋賀県高島市新旭町北畑のの番地

☎ 0740 (25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉ info@city.takashima.lg.jp